２０２３　沢便り９　下ノ廊下を遡る

黒部・下ノ廊下（2023/10/26-27）

Ｈロ

　２年前に黒部ダムから欅平へと歩いた下ノ廊下を今度は逆に欅平から黒部ダムに向かって歩いてみたいと思った。どうも僕は釣り人で、下流から上流に向かう方が性に合っているのではないかと考えたのだ。

　トロッコ列車・宇奈月温泉駅に着くと改札前に長蛇の列が何列もできていて驚いた。せっかく前泊したのに始発に乗れなかったら意味が無い。切符売り場の列はなかなか進まず気が気でなかったが、何とか８：１７の始発のチケットを買うことができた。

　列車に乗り込み黒部川沿いの景色を眺めながら進んで行く。窓の無い直接の景色。良く晴れていて気持ちがいい。
　出だしがあわただしくなったのは宿の主人の話しが面白くて出るのがギリギリになってしまったからだ。初めて会ったのにすぐまた会いたくなる人ってのはいるもんなんだなぁ。そんなわけでこの旅はいい形で始まったのである。

　列車は欅平駅に９：４０到着。改札前では旗を持った添乗員が団体さんを集めて集合時間の案内をしていた。１時間ちょっとここで過ごしてまた戻るようだ。ちなみに欅平周辺の紅葉はまだ始まったばかりでちょっと早いみたい。

　９：５０、『阿曽原方面』と書かれた看板から石段を上り始める。３５０m上方の水平歩道まで高度を上げねばならない。まずは２５０m上のパノラマ展望台までの急な上りだ。途中で阿曽原から来た若い二人組とすれ違う。5時にテン場を出たそうだ。別れ際に「お気をつけて」と言うのが普通だと思うが、彼らは「どうかご安全に」と言った。地元の人かしら。

　次に出会ったのは４時に小屋を出たというオジサン。紅葉がどうだったかと聞くと「バッチグー！」と答えた。おぉ、良き昭和世代。
「あっちの山もこっちの山も上は白くて紅葉もサイコー！もうバッチグー！」何か期待できそうだ。

　パノラマ展望台まで上がると紅葉はだいぶ進んできた。水平歩道まであと１００m。道はなだらかになったが狭い。若い女性に道を譲ったら
「これからですか、良かったですよぉ」と言って来た。
　どこが良かったかと聞いてみた。てっきり“十字峡”とかと答えるかなと思ったら「う～ん、すべて！だってスケールがすごくて」と明るい笑顔で答えた。

　今度は年配女性二人組。
「あら、下ノ廊下？明日は天気悪いわよ」と片方が意地悪な一言。するともう一人が「またあなた、そんなこと言って、ごめんなさい」と僕に申し訳なさそうな顔をした。
「まあ日ごろの行ないのせいでしょうから」と答えてやり過ごした。
　いろんな人が居る。阿曽原を早出した人たちとちょうどこの辺ですれ違うタイミングのようだ。

１０：３５、『水平歩道　始・終点』と書かれた看板の所に出た。ここからは標高９５０ｍレベルに付けられた水平な道となる。やがて目に入るのが奥鐘山。前半はこの奥鐘山を対岸に見ながら進んで行くことになる。送電線を越える辺りでトロッコ列車の汽笛と線路の音が聞こえてきた。まだ欅平からそれほど離れていない。

紅葉はきれいに進んでいる。良さそうな景色にカメラを向けシャッターを押すが、撮った写真を見返すとどうしても見たようには撮れていない。わかってはいるけれどそれでもシャッターを押してしまう。今回は写真が多くなりそうだ。

進むうちに奥鐘山の山容が変わってくる。上部も色づいているが、特に上部右側は紅葉の赤が滝になって流れ出しているみたいに見える。下部の切れ落ちた岸壁も見えてきた。谷筋にからむと前方の山腹に水平歩道がきれいに一直線に刻まれているのが見て取れる。

志合谷のトンネル入口に１１：４５。ヘッデンを取り出しトンネルに入る。下には水が溜まっている。靴を濡らしたくないので石の頭を選んで歩く。深い所もあったがミドルカットの靴を履いていたので中まで水が入ってくることは無かった。
意外とトンネルは長く２回目とはいえ不安になる。左前方に穴があり光が射していた。やっと出口だ。ちょっと穴が狭く感じたが通り抜けて外へ出た。ところがどうしたことか道が無い。上もガレ、下もガレ。おかしい。もしかしてと思ってもう一度穴からトンネルに入ると先ほどの所から見て右前方にトンネルがまだ続いていた。そこを進んで行くと立派な出口に出た。さっきの所、間違える人いるんじゃないか。

志合谷左岸の斜面は紅葉が美しかった。さらに進んで行くと岩盤を削って作られた奇勝“大太鼓”。突端部は見方によってはマッコウクジラが口を開けて紅葉の景色を飲み込もうとしているかのように見える。番線に手を掛け絶景の真っただ中に居る事を感じながら歩を進める。

奥鐘山の山容がまた変わってきた。山頂をつまんで右にひねったかのように太く走った斜面に目を引かれる。前回最初に見た奥鐘山の姿がこれだった。
そろそろお腹が空いてきた。オリオ谷まで行ってランチをと思っていたがあまり遅くなると夕食のカレーをお代わりできなくなる。途中の陽だまりでとることにした。

オリオ谷には１３：２０。四角いブロックのようなトンネルを潜って越える。オリオ谷の左岸斜面も紅葉が美しかった。水平歩道は黒部本流から離れ静かな紅葉の散歩道となって続いていく。

奥鐘山が見えなくなってついに小屋が見えた。下の広場には既にテントがいくつか張られている。阿曽原谷の丸太橋を渡り、１４：３５、阿曽原温泉小屋に到着した。

小屋番の佐々木さんは見るからに温かい人だ。下ノ廊下の登山情報を毎日発信し続けることで安全な登山を啓蒙し、迷惑な人にはちゃんと怒鳴って指導する。
その佐々木さんに志合谷のトンネルで間違えたことを伝え、あそこには間違えないように『×』の表示をしたらどうかと言ってみた。すると
「あんな所を出た？よく出たなぁ。この３０年で二人目だ」とあきれられてしまった。

この小屋のお楽しみは何と言っても野天風呂である。男性は偶数時間からで１６時を待って入りに行った。温泉までは１００ｍ下るのだが、温泉上がりの女性たちが「せっかく温泉入ったのにまた汗かいちゃう～」なんて言いながら帰ってくる。
野天風呂は４畳ほどの大きさである。湯加減は至極いい。正面の山の紅葉を眺めながらいつまでも浸かっていたくなる。

１８時からの夕食は富山県産の米と黒部名水ポークを使った阿曽原温泉小屋名物のカレー。美味しくて２回お代わりしたが、さすがに寝てからも胃がもたれていた。

翌朝、多くの人たちは朝食をとらずに５時頃から出発して行った。僕も当初の予定では早立ちを考えていたのだが、小屋に着いた時に佐々木さんに「朝食べてけば」と言われてそのまま流れで「はい」と答えてしまった。黒部ダムでもう一泊するのだから帰りのバスの時間を気にすることはない。
しかし昨晩４０人以上が泊まっていたのに朝食の席に１０人くらいしか居ないと失敗したかなと不安になる。しかもこの中で黒部ダム方面に向かうのは僕だけみたい。

６：３０に小屋を発つ。のっけから１００ｍの急登である。水平歩道に出て、さぁ、今日も紅葉ハイクの始まりだ。歩き始めると左方遠方に奥鐘山の頭が見えた。
トンネルを抜けて今度は関電人見平宿舎まで１００ｍの急な下りとなる。建物を回り込んで宿舎内に入る。中は蒸していたり線路が引いてあったりと怪しい建物である。
建物を出ると仙人ダム。恐ろしいほど青い色をしている。ダム湖の周りの紅葉した山は泰然として聳え、その中に雲切谷の真っ白な連瀑帯が動きを与えていた。
覆道を抜けると右前方の山腹に三角おにぎりが二個並ぶのが見える。黒四発電所だ。「ぼっ、ぼくは、お、おにぎりが、す、好きなんだなぁ」と思わず言いたくなる。長い吊り橋を渡って「お、おにぎりの前から、きゅ、急な上りになるんだなぁ。」
おにぎりと同じ高さまで上がると水平歩道となる。ここからは黒部川の流れに沿って渓谷沿いに路が伸びている。

深いＶ字谷、両岸は立ち上がった紅葉の斜面。その間に付けられた溝を歩いている。８：１０、Ｓ字峡に着いた所で一本取った。シュプールのようにくねった流れから荒々しい岩盤が立ち上がりさらに紅葉の斜面へと昇華する。前回も心惹かれた景色である。その景色を見ていたら、ふいに黄色い葉っぱが一枚、谷の真ん中をスローモーションのように落ちて行った。俳句の世界みたいな景色だった。

すぐ先が半月峡、素晴らしい景観が続く。写真を撮っても、数歩歩くとまた写真を撮りたくなる。一人で歩いているのに通過するのに時間が掛かってしまう。黒部ダムに向かうびりっけつなので後ろを気にすることは無いけれど。

十字峡に９：００到着。吊り橋を右手には剣沢からの落ちて来るような流れ、左手には十字峡の中心部を眺めて渡る。前回行かなかったので今回は十字峡を下まで下りてみたいと思っていた。急な細い斜面を下った所にある巨岩から眺めると、棒小屋沢からの流れと剣沢からの流れが真ん中でにじむようにぶつかり、行き場を迷いながら本流の流れに押され下流へと向かって行くのが見受けられる。もっと下まで行けるようだが、この様子をしばらく眺められただけで十分だった。

十字峡を過ぎて少し行った所で黒部ダム方面からの女の子と行き交った。
「他の人とすれ違いました？私一番ですか？」
誰ともすれ違わなかったので「あなたが一番です」と手をひらひらさせて言うと「ラッキー！このまま一番で行きます」と言った。４：３０にロッジくろよんを出たというから早い。チョコボールのキョロちゃんみたいな女の子だった。

白竜峡辺りからすれ違う人も増えてきた。水平歩道を歩く人が写真に入ってくるとその景観の大きさがわかって迫力が増す。

黒部別山谷の出合で流れは左に折れる。正面の壁には歩道を歩く人たちが蟻の列のように見えた。
１０：１５、黒部別山谷の出合に到着すると、阿曾原温泉小屋を早出した若い男女四人組が休んでいた。ようやく最後尾に追いついた。

ここから先は谷筋が少し広がる。進行方向が南に向き、陽の光の具合で振り返った景色の方が紅葉の景色が映えて見える。

新越沢を越えてから路は渓谷沿いの登山道に変わる。黒部川の流れに近づいて淵を覗くとイワナが何尾も泳いでいるのが見えた。
前回も見た覚えがある白い巨岩に囲まれた青い淵、そこでもイワナの姿が見えた。しかも先ほどのよりも大きい。いいなぁ、イワナはいいなぁ。

内蔵助谷を越えて、前方にサメの歯のように尖った山のシルエットが見えてきた。進むにつれて左奥にさらに尖ったピークが増えてくる。赤沢岳だ。だいぶゴールに近づいてきた。

前方に目をやると逆光の中に黒部ダムの堰堤が立ちはだかっていた。黒部川を分断する巨大な壁。もし下流から上流を目指してやって来たイワナがこの堰堤を見たら『猿の惑星』のラストシーンくらい愕然としてしまうだろう。「俺はどうしたらいいんだ…。」そんなことを考えながら堰堤手前の橋を渡った。

そしてここから黒部ダム駅までの上りが突き上げのようにきつい。ラスト、ここは耐えて上るしかない。

ジグザグを上り詰めると紅葉の山の後ろに冠雪した立山が見えた。それはご褒美のような景色だった。１３：２０、黒部ダム駅に到着。午後から雨の予報が出ていたがおかげさまで陽の光が射す中を歩いて来ることができた。日ごろの行ないは決して悪くはなかったみたい。

思った以上に早く歩き切れた。この時間なら余裕で東京まで帰れるが今回はロッジくろよんに宿を取っておいた。時間にしばられた歩き方をしたくなかったからだ。
ダムの見学でもしようとダム展望台まで上がって行く。赤牛岳方面は霞んでいたが黒部湖周辺の山は紅葉に覆われ立山は雪を纏っている。下ノ廊下終点の景色を存分に味わった。そんな中、ポツリポツリと雨が落ち出した。ロッジくろよんまでそう遠くはない。この程度ならこのまま行こう。

ダムの堰堤を渡る時、中心部から下ノ廊下方面を眺めてみた。谷がくねって奥までは見えない。その奥に素晴らしい景観があったことを思い浮かべる。あぁ、歩き切っちゃったなぁ。
遊覧船乗り場を越え、かんぱ谷橋を渡った先からの紅葉もきれいだった。それは渓谷の中の紅葉とは違う散歩道の紅葉の良さだ。

ロッジくろよんの部屋で昨日今日を振り返ってみた。奥鐘山や大太鼓、野天風呂、Ｓ字峡、十字峡などいろいろな景色が思い浮かぶ。一日目には一日目の良さ、二日目には二日目の良さがあった。下ノ廊下の歩き始めですれ違った若い女性がどこが良かったかの問いに「う～ん、すべて！」なんて言っていたけれど、本当にその通りだ。今年も黒部はたくさんの素晴らしい思い出を与えてくれたなぁ。

（Ｈ口　記）